人をつなぐ 未来へつなぐ 市川の教育

教育いちかわ

第３期市川市教育振興基本計画
～次のような方針を掲げています～

方針１ 感性を豊かに働かせ、社会の中でたくましく生きていくことのできる子どもを育てる

方針２ “自分らしく輝くための学び”の環境の実現と学びのセーフティネットを構築する

方針３ 社会の変化を見据えた教育環境の整備を図り、市川の質の高い教育を推進する

■発行
市川市教育委員会
■企画編集
市川市教育センター
〒272-0015
市川市鬼高1-1-4
TEL　320-3335

令和３年度教育行政運営方針

～新年度の重要な取組の一部を紹介します～

令和３年２月市川市議会定例会の開催にあたり、田中教育長が令和３年度の教育行政の運営に向けた基本方針とそのもとで取り組む重要な施策について述べました。

市川市教育委員会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大という危機的状態の中で、子供たちの学びの保障と生涯学習の場の確保に努めてきました。予測困難な時代にあっても、すべての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現し、あわせて、生涯を通じた学びを接続することで、新しい時代の教育を目指していきます。

生涯を通じた学び

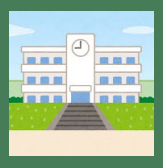
- 本を介した新たな学びと交流の場をつくります
- オンライン講座など生涯学習の機会を充実させます
- 移動図書館の車を新しくし、サービスを向上させます

学校における学び

- 児童生徒がICTを活用した学びを進められるよう支援します
- 特別支援教育を推進し、子どもの支援体制を強化します
- 外国語教育を充実させます
- 就学前の教育と小学校での学びをスムーズにつなげます

教育環境の整備

- 児童生徒が増えている特別支援学校の教室不足の解消に取り組みます
- 放課後保育クラブを増設します
- コミュニティ・スクールの取組を推進します
- 学校給食費を市で一括管理します



令和３年３月３日
日直
教育総務課

「東国分爽風（そうふう）学園」スタート
～義務教育9年間の学びを切れ目なくつなぐ教育コミュニティ～

令和３年度から東国分中学校、曽谷小学校、稲越小学校の３校で、将来的な義務教育学校の設置を目指し、小中一貫教育の推進を図っていくこととしました。

それぞれの学校名や校舎、教職員などは現在のまま変わりませんが、３校が一体感を高めるため、まとめて呼ぶときの通称名を「東国分爽風（そうふう）学園」としました。この通称名は３校の児童生徒、保護者、地域、そして卒業生からの応募をもとに、児童生徒の投票などを行いながら選定したものです。

「東国分爽風学園」がスタートすることによって、東国分中学校ブロックは、義務教育9年間の学びを地域全体で支える教育コミュニティの構築が図られ、その成果は義務教育学校「塩浜学園」の取組と合わせて、市内の小中一貫教育の推進に生かしていきます。

詳細につきましては、ホームページをご覧ください。

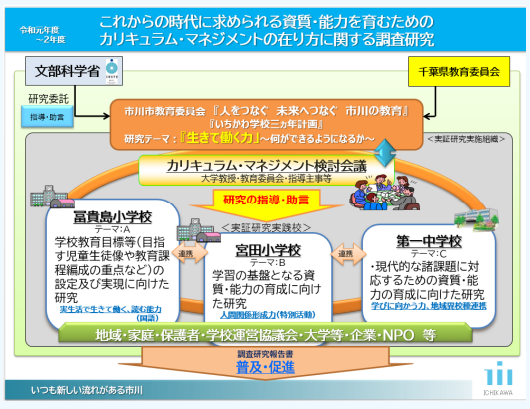
市川市教育委員会／学校教育・学校施設／義務教育学校の設置に関する検討委員会について／東国分中学校ブロック小中一貫型小学校・中学校に関する基本計画　【学校環境調整課】

文部科学省委託事業

「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」

市川市では、各学校で「いちかわ学校三ヵ年計画」という教育計画を作成し、校長のリーダーシップのもと、学校運営を円滑に進められるよう、ＰＤＣＡサイクルの確立とともに、効果的なカリキュラム・マネジメントの実現を目指しています。

特に、令和元年度から２年間、文部科学省の「カリキュラム・マネジメントの在り方に関する研究」に取り組んでおり、市内小学校２校（宮田小・冨貴島小）、中学校１校（第一中）が、各学校の教育計画をもとに、実践を積み重ねてきました。冨貴島小学校では、「学びに向かう力・読む能力」の育成、宮田小学校では、「人間関係形成力（特活）」の育成、第一中学校では、「学びに向かう力・地域異校種連携」の研究を進め、各校で着実に成果が表れてきています。



令和２年度末には、カリキュラム・マネジメントを活かした学校づくりについてこれまでの取組と成果をまとめ、市内に発信していく予定です。

※「カリキュラム・マネジメント」とは、各学校が、学校教育目標の実現に向けて、教育課程（カリキュラム）を編成・実施・評価し、改善を図る一連のPDCAサイクルを計画的かつ組織的に推進していくことです。　【指導課】

教育功労者表彰

教育功労者の表彰は、教育、学術または文化の振興などに関し、特に功績が顕著であった個人または団体を表彰するものです。受賞された皆様、おめでとうございます。※敬称略　【教育総務課】

千葉県教育功労者
【学校教育の部】
林　　直　也　　市川市立第一中学校　校長
望戸　千恵美　　市川市立中山小学校　校長
【芸術文化の部】　市川民話の会

市川市教育委員会教育功労者

吉野　和雅	市川市立八幡小学校　校長
井上　栄	市川市立国府台小学校　校長
髙井　伸明	市川市立第二中学校　校長
大道　直和	市川市立第三中学校　校長
戸板　長俊	市川市立大洲中学校　校長
五十嵐　祐子	市川市立須和田の丘支援学校　校長
富永　加代子	市川市立宮久保小学校　教諭
牛尾　直枝	市川市立塩焼小学校　学校司書
谷地　智恵	市川市立稲越小学校　栄養士
中村　彰男	市川市立市川小学校他　学校医
松本　義明	元 市川市立東国分中学校他　学校医
髙橋　文枝	市川市立八幡小学校　学校歯科医
藤川　百合子	市川市立北方小学校他　学校薬剤師

プロから学ぼう ～タグラグビー教室～

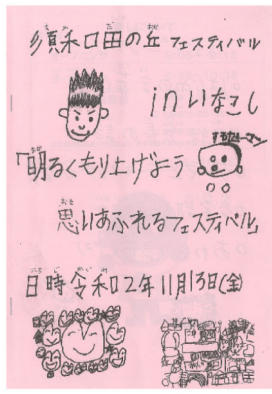
市川市では，平成２５年度より日本ラグビートップリーグに所属する「クボタスピアーズ」の協力のもと、選手やスタッフの皆さんに「タグラグビー教室」を実施していただいております。タグラグビーは，小学校学習指導要領に示されている「ゴール型のゲーム」（３・４年生）や「ボール運動」（５・６年生）の領域に直結しており、陣地を取り合う活動を通して、作戦を立てたり、仲間と助け合ったりしながら、運動技能を高めていきます。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、感染症対策を講じながらの開催となりました。開催された小学校では、たくましく体の大きな選手の皆さんを目の前にして、はじめは緊張気味な様子の子供たちでしたが、選手の皆さんと一緒に声を出し、体を動かしていくうちにすっかりうちとけ、夢中になって活動していました。タグをとること、慣れない楕円形のボールに触れること、日本最高峰のリーグで活躍する選手に直接指導していただくこと、どれもが子供たちにとって新鮮な体験で、どの子供も目を輝かせていました。

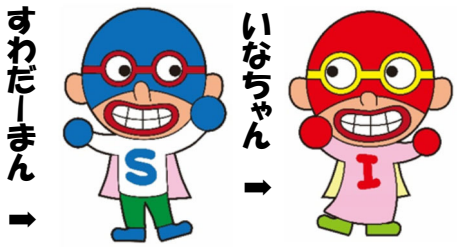
この学習をきっかけに、スポーツへの興味を広げ、子供たちの運動経験をより豊かにしてもらえればと思います。　【保健体育課】

日ごろの成果を披露「須和田の丘フェスティバル」

１１月１３日（金）「明るくもり上げよう思いあふれるフェスティバル」のテーマで、須和田の丘フェスティバルが須和田の丘支援学校（稲越分校）を会場に開催されました。今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止ため、児童生徒のみの参加となりましたが、子供たちの元気な演奏、ダンスなどの発表により、会場全体が笑顔につつまれました。



小学部は「みんなで明るく」「前を向いていろいろなことにチャレンジしよう」をテーマに発表しました。元気いっぱい踊る姿や、手作りの楽器を楽しそうに演奏する姿がとても印象的でした。中学部１、２年生は、鉄琴やツリーチャイム、コンガ等の打楽器を使い、「花は咲く」の合奏を行いました。３年生は「あさがお」を合奏と朗読に分かれて発表しました。もうすぐ卒業を迎える３年生らしいメッセージが込められた内容でした。高等部は「リズムで団結」というテーマを掲げ、みんなの息を合わせた見事なボディーパーカッションを披露していました。

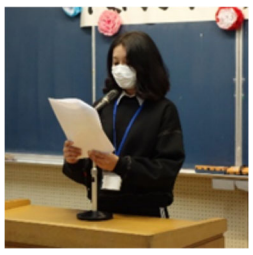


例年なら、フェスティバルの中で頒布会も行っていましたが、コロナ禍のため児童生徒や保護者を対象とし、学部ごとに時間や日を変えて行いました。

各学部の発表や作業製品から、学習の積み重ねによる子供たちの成長が伝わってくる素敵なフェスティバルとなりました。　【指導課】

日ごろの成果を披露 大洲中学校夜間学級　弁論大会

11月13日（金）に大洲中学校夜間学級において、弁論大会が行われました。例年、多くの参観者を迎えて開催してきましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、参観者数を制限しての実施となりました。現在、大洲中学校夜間学級には、外国籍の生徒や、中学校の学習を学び直している生徒が、１８名在籍しています。大会当日は、一人一人が、入学に至った経緯や、母国の紹介、それぞれの夢に向けて頑張っていることなどを、自分の言葉で真剣に語りました。その姿は、生き生きとしていて聴衆の心を捉えました。学ぶことの価値を改めて感じることのできた大会でした。（大洲中学校夜間学級の紹介は、市川市教育委員会HPよりご覧いただけます。）　【指導



農業・稲作体験活動お米も野菜も豊作でした

農業・稲作体験活動は、稲作や野菜作りを通じて、自然や人とのふれあい、勤労と収穫の喜びを体験し、心豊かな子供たちを育てることを目的としています。農業・教員経験者等で構成されている「市川米っ人くらぶ」に業務を委託し、平成１３年から小川再生親子ふれあい農園内で行われている事業です。

ダイコン収穫

稲作では、「代掻き」「田植え」「はぜ作り」「稲刈り」「脱穀」、野菜作りでは長ねぎ、玉ねぎ、じゃがいも、大根、落花生、さつまいも等の作物を植え付けから収穫まで年１４回程度実施しています。さらに、農園内の環境や生態系を学ぶため、「昆虫教室」等の野外学習を作業前に実施する活動日もあります。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、活動回数を減らし、感染拡大を防止する対策を講じたうえで「稲刈り」と「野菜の収穫」で３回の活動を実施しました。

稲刈り

参加した子供や保護者からは、「農業・稲作体験を通じた自然とのふれあいや、作物への感謝の気持ち、収穫までにかかわった多くの方々への感謝の気持ち、教科書を読むだけでは学習できないことを親子で学ばせてもらった。」「田植えから稲刈り、作物の植え付けから収穫までもっと多くの体験活動をしたかった。」などの声が数多く寄せられました。　【青少年育成課】

教育実践記録論文　受賞者決まる

教育実践記録論文は、教育実践をまとめることが自己研鑽につながることを目的に、昭和５４年に始まり今年度で４２回目を迎えます。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、休校や教育活動の様々な場面での制約がある中で、幅広い学校種・職種からの論文１７編の応募がありました。

一般部門の最優秀賞は、専門知識と技能で児童生徒へ支援を行う須和田の丘支援学校の言語聴覚士や理学療法士の3名が受賞されました。

この論文からは、3名の方の役割や取組、そして特別支援学校のセンター的機能についてわかりやすく記されており、市川市内外の先生方にも広めていく価値のある内容と高く評価されました。また、論文としての形式も整っており、審査員からは、論文作成の際には参考にしてほしいとの意見もありました。

フレッシュ部門では2名の先生が最優秀賞を受賞されました。

菊地先生の論文では、子供の主体性を育てたいという担任のビジョンが明確で、そのビジョンに沿って学級経営をしていることがよくわかり、子供の活動の様子、変容がとてもよく伝わってくると評価されました。

黒川先生の論文では、総合的な学習の時間として、見通しを持って計画的に進めている点や、子供たちに学びを振り返るだけでなく、次への見通しも持たせ、それを教師が丁寧に見取り、適切な支援を行い、児童の学習状況を教師が適切に把握し、指導の改善を図っている点などが評価されました。

どの論文からも、明確なビジョンのもと計画的に日々の教育活動に取り組む教職員の姿が感じられました。

部門	賞	学校名	氏名	職	分野	テーマ
一般部門	最優秀	須和田の丘	櫻井　健弘 篠塚　鍛男 野口　祐輔	主　査	その他	チーム須和田の丘の一員となって ～言語聴覚士･理学療法士の支援学校での活動～
	優秀	稲荷木小	岡田　紘明	教　諭	国際理解教育	グローバルな視点を持った児童の育成を目指して
	優秀	新浜小	比留間　千夏	教　諭	特別支援教育	「感情のコントロールを学ぶ」
	優良	大洲中	長﨑　誠	教　諭	理科	身近な素材を活用した観察学習の工夫･改善について
	特別	新浜小	堀切　宏	校　長	学校経営	新しい時代の環境教育の推進について
	努力	市川小	倉本　有巳子	教　諭	学年学級経営	Q-Uを生かした学級集団作り
	努力	新浜小	内川　佳代 他8名	教諭等	外国語	教科化した小学校英語の指導と評価へのアプローチ
	努力	新浜小	伊勢　太惇	教　諭	特別支援教育 情報教育	リアルな画面を何度でも！ VRを活用したソーシャルスキルトレーニング
	努力	大和田小	鈴木　雄介	教　諭	国語	児童が主体的･対話的に取り組む書写学習
	努力	須和田の丘	頼經　直尚	教　諭	情報教育	特別支援学校におけるICT機器の活用とオンライン授業について
フレッシュ部門（教員経験年数5年以下）	最優秀	宮久保小	菊地　青佳	教　諭	学級経営	学級力を高め、共に育つ子どもの育成を目指して
	最優秀	宮久保小	黒川　留理夏	教　諭	総合的な 学習の時間	宮久保すばらしさ探検隊！
	優秀	須和田の丘	槌屋　卓麻	教　諭	特別支援教育	行動面に課題のある生徒が力を発揮するために
	優秀	須和田の丘	水野　千里	教　諭	特別支援教育	教室に入れない聴覚過敏の児童に対する支援の仕方について
	優良	宮久保小	中森　友貴	教　諭	国語	「書くことが嫌い。」から「書けるかも！」へ
	優良	冨美浜小	石原　利江子	教　諭	特別支援教育	一人ひとりが輝ける特別支援学級
	努力	大柏小	中居　裕	講　師	その他	信頼される教員になるための第一歩

受賞された皆様、おめでとうございます。　【教育センター】

「第一中学校ブロック」地域で人をつないだ取組が評価され“ダブル受賞”

「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰　受賞！
千葉県「ライトブルー賞」育成功労の部（団体）

文部科学大臣表彰は、地域全体で次代を担う子供たちを育成するために、地域と学校が連携・協働し、地域の教育力の向上を図り、社会総掛かりでの教育の実現を目指すことを目的に、幅広い地域住民等の参画により、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え、地域を創生する活動に対し、その功績を文部科学大臣がたたえるものです。

第一中学校ブロック（第一中、市川小、国府台小、中国分小）の地域学校協働本部は、『Firstnik☆ふぁ～すとにぃく☆』という愛称で活動しています。これまで、地域と学校をつなぎ、「児童生徒と地域ボランティアが考え議論する道徳学習」や「地域行事の見える化“コミュニティカレンダー”の発行」など、地域ぐるみで子供たちを育成する活動を行ってきており、地域と学校のパイプ役である“地域学校協働活動推進員”が中心となり、様々な活動を継続的、組織的に行ってきたことが評価されました。

ライトブルー賞は、郷土千葉県の新しい時代を担う、心豊かなたくましい青少年を育成するため、善意や親切心からよい行いをした青少年及び、青少年を育成支援する活動において顕著な功績があった者を千葉県青少年対策本部（本部長は千葉県知事）が表彰し、その活動をたたえるとともにその気運を県内のすみずみまで広めていくものです。

『こうのとり委員会』は、地域の祭りを復活させ、子供を核としたコミュニケーションの活性化を目指し、多くの出店団体と協力して青少年の健全育成を担ってきました。2015年より毎年7月末に国府台小学校の校庭で「こうのとり祭り」を開催してきました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、中止となってしまいましたが、再開を望む声が多く聞かれるほど、地域になくてはならない行事となりました。

第一中学校ブロックは、大学、高等学校の教育機関や病院、スポーツ施設があり、個別の団体同士の連携が築かれてきた地域です。今回受賞された「地域学校協働本部」が地域の諸団体を緩やかなネットワークでつなぎ、夏の「こうのとり祭り（こうのとり委員会）」でお互いのつながりを実感することで、さらに素晴らしい地域へ発展することが期待されます。

学校を核にした地域づくりを積極的に行っている取組を市川市内へ広め、それぞれの地域に合った実践ができるように教育委員会としても応援していきたいと思います。　【学校地域連携推進課】

我々を惹きつけ続ける富士山　ー葛飾八幡宮の富士塚ー

世界に誇る日本の象徴である富士山は、信仰の対象と芸術の源泉として平成25年にユネスコの世界文化遺産に登録されました。古くより神の住む山として畏れられ、崇められてきた富士山は、日本古来の山岳信仰と仏教が習合した修験道の道場として、また江戸時代には、広く庶民が富士講というグループを作り巡礼に訪れる場となっていました。

【葛飾八幡宮の富士塚】

市内には、地域の富士講によって富士山に見立てて築造した富士塚が、鬼越の神明神社、本行徳の八幡神社、押切の稲荷神社などに残され、その中で最も古いと思われるものが葛飾八幡宮の社殿右側裏手にある富士塚です。

現在の富士塚は平成28年の改修後のもので、高さ2m余りであり、頂上には寛政12年（1800）と刻まれた石祠が鎮座しています。頂上へ向かう途中にいくつかの石碑が建ち、その一つが大正13年（1924）の「富士登山記念」と刻まれたものです。石碑には富士講として富士山を巡礼した41名の登山者名も刻まれ、その多くが川上、岩沢、山崎などの姓を持つ者であることから、地域の担い手を中心とした講であったとうかがえます。

富士塚内の大正十三年富士登山記念碑

修験道の伝統として富士山は明治時代初頭まで女人禁制でした。富士塚は富士登山が困難な人々のために作られ、登ることで富士山巡礼と同じご利益を得ることができるとされてきました。富士山に対する人々の強い思いがうかがえます。

※歴史博物館では企画展「葛飾八幡宮と八幡の藪知らず」を2月14日（日）から3月28日（日）までの予定で開催し、富士塚を紹介します。

【歴史博物館】

大丈夫ですか？ネットトラブル

昨今、インターネットやスマートフォンが、子供たちにとってたいへん身近なものとなっています。これらは安全に使えば便利なものですが、残念ながら個人情報流出、依存、誹謗中傷などのトラブルや事件のきっかけにもなっています。

少年センターでは、こうしたネットトラブルを未然に防ぐために、児童生徒や保護者へ向けた「インターネットトラブル防止出張授業」を実施しています。

昨年12月末までに13校（43コマ、延べ1930名）へ訪問し、インターネットの特性である「公開される・広がる・記録される」ことの怖さについて、トラブル事例をもとに伝えてきました。

また、子供たちをインターネットの危険から守るためには、大人の見守りが不可欠です。スマートフォンを持たせる際の「家庭でのルールづくり」など、地域や保護者の皆様への啓発活動も更に力を入れていきたいと考えています。

【少年センター】

特別支援学級（知的及び自閉症・情緒）及び通級指導教室（自閉症・情緒/ＬＤ・ＡＤＨＤ）を開設

市川市教育委員会では、特別支援教育推進に係る環境整備のため、市立学校に知的の特別支援学級を２８校、自閉症・情緒の特別支援学級を８校開設しています。

近年、個に応じた教育的支援のニーズが高まっていることから、市内の設置バランスを考慮し、令和３年４月より次の２校に、特別支援学級及び通級指導教室を開設することになりました。

【特別支援学級（知的）】
市川市立国府台小学校　　所在地：国府台５－２５－４
【通級指導教室（自閉症・情緒/ＬＤ・ＡＤＨＤ）】
市川市立塩浜学園（前期・後期）所在地：塩浜４－５－１

なお、開設に関するお問い合わせにつきましては義務教育課に、入級に関するご相談は教育センターまでお申し込みください。

○義務教育課　　ＴＥＬ　３８３－９２６１
（月曜日～金曜日　午前９時～午後５時）
○教育センター　ＴＥＬ　３２０－３３３６
（火曜日～土曜日　午前９時～午後５時）

【義務教育課】

子供にかかわる相談はここでできます！

◆**教育相談（教育センター）**

予約TEL **320－3336（教育センター相談室）**
予約TEL **318－3223（行徳相談室）**
火～土（午前9時～午後５時）　対象：３歳～中学校3年生

子育てや発達等の悩みに関して、専門的知識を持つ教育相談員が保護者との面接相談をしています。

◆**ほっとホッと訪問相談（教育センター）**

TEL **320－3362**（教育センター相談室）火～金（午後0時30分～午後5時）
対象：小学校1年生～中学校3年生
不登校や子育てについての保護者からの相談を電話でお受けしています。
自宅等に出向いてお話を伺うこともできます。

◆**少年相談（少年センター）**

TEL **320－3340** 月～金（午前9時～午後５時※水は午後７時）
メールアドレス　youngnet@city.ichikawa.lg.jp
対象：小学校1年生～20歳未満
家庭生活、交友や健康など様々な悩みの相談（電話、メール相談あり）を受け付けています。本人からの相談も可能です。

【教育センター】

★令和３年度　小・中学校の講師募集★

市川市教育委員会では、市内の公立小学校・中学校・義務教育学校・特別支援学校に勤務できる講師等を募集しています。

１．募集職種
（１）県費講師…臨時的任用講師・会計年度任用職員（非常勤講師）
（教員・養護教諭・学校栄養職員・事務職員）
（２）市費会計年度任用職員…少人数学習等担当補助教員、特別支援学級等補助教員

２．応募方法
義務教育課・教職員班へ電話でご連絡ください。
TEL　０４７－３８３－９２６１
※詳細はWebページをご覧ください。

【義務教育課】

【お知らせ】

教育委員会広報紙「教育いちかわ」は、例年年間４回（Web版１回、紙面配付３回）発行してきました。

来年度は、年間４回の発行をすべてWeb版に変更します。Web版は、教育委員会のホームページからご覧いただけます。今後も教育に関する様々な情報をお届けしますので、ぜひご覧ください。

【教育センター】